

2017年3月7日

## マクラーレン・スーパーシリーズの新たな夜明けを告げる、 McLaren 720S の完全情報および未公開画像

- McLaren 720Sの登場により、マクラーレン・ブランドの中核であるスーパーカー・ファミリー、スーパーシリーズが第2世代に突入
- マクラーレンのデザイン言語とエアロダイナミクスへのこだわりを大胆に再解釈し、傑出した性能を求めるマクラーレンのDNAを具現化
- 「モノケージII (Monocage II)」を車体中心部に配したカーボン・ファイバー製シャシーなどの採用によって、乾燥重量が最軽量の1,283kgになったほか、車内のスペースが広くなり、見通しも大幅に向上
- ドライバー第1主義の豪華なキャビンには、最上質のレザーとアルミニウム製スイッチを採用
- スーパーシリーズで最高のエアロダイナミクス面での効率性、ならびにマクラーレンの新世代アクティブ・シャシー・システムである「プロアクティブ・シャシー・コントロールII」により、ドライバーとクルマとの一体感が驚異的なレベルにまで向上
- 精緻さ、快適さへのこだわり、優れた操縦性といった、マクラーレンらしい、多様かつダイナミックな機能を継承
- 最高出力720PS、最大トルク770Nmのパワー、最大561PS/トンのパワーウェイト・レシオを誇る、新型4.0リッターV8ツインターボエンジン
- 時速100kmまで2.9秒、時速200kmまで7.8秒で加速し、最高速度は時速341km
- 時速200kmから停止まで4.6秒、その間の移動距離は117m
- McLaren 720Sの車両本体価格は、33,383,000 (税込) から
- 7月よりデリバリー開始予定

新しい McLaren 720S が 3 月 7 日、第 87 回ジュネーブ国際モーターショーで世界デビューを果たしました。これにより、マクラーレンのスーパーシリーズが第 2 世代を迎えるとともに、スーパーカー・セクターの常識を打ち破った、画期的な性能が披露されることとなります。

マクラーレン・オートモーティブの CEO マイク・フルーウィット (Mike Flewitt) は次のようにコメントしています。「スーパーシリーズは、マクラーレンの事業の核となるものであり、マクラーレンが大切にしてきた、桁外れの性能と職人技による贅沢さ、比類なきドライバーとクルマとの一体感が見事に融合しています。マクラーレンが製品ファミリーを更新するのはこれが初めてで、新しい 720S は、ブランドおよびスーパースポーツカー・セグメントのために革新的な飛躍を果たすという、マクラーレンのパイオニア・スピリットをそのまま具現化したものとなっています」

ニューモデルの公開により、第 2 世代のマクラーレン・スーパーシリーズの名称と最高出力が 720S と 720PS であることが明らかになりましたが、その詳細については、過去数カ月にわたるオンラインでの予告リリースで徐々に明らかにされてきました。英国サリー州に本拠を置く高性能な高級スポーツカーおよびスーパーカーのメーカーであるマクラーレンでは、1 月から 6 回にわたる一連のプレスリリースを発行してきましたが、それぞれのリリースには新モデルの画像とともに、数字上のヒントが添付されていました。今回、6 つのリリースを出した理由が、 $1 \times 2 \times 3 \times 4 \times 5 \times 6 = 720$  という数式にあるということも明らかになりました。

新しい 720S は、同じスーパーシリーズの McLaren 650S よりも軽く、速くなっているほか、性能も大幅に向上しています。また、車内のスペースと洗練性、ならびにドライバーとクルマを一体化させ、ドライバーをワクワクさせるような機能の豊富さが比類なきレベルに達しています。720S をひと目見るだけで、マクラーレンのデザイン言語と伝統である



エアロダイナミクスへのこだわりが大胆に再解釈されていること、美しいフォルムには一切の無駄がないこと、疑いの余地がなくもっともマクラーレンらしいマクラーレン車であることがおわかりいただけるでしょう。

新しいスーパーシリーズのデザイン面での特色の1つは、車体の横にあるラジエーター・インテークを省いたことです。その代替の役目を果たすのは、ディヘドラル・ドアに装備された、独自のエアロダイナミクス形状である「ダブルスキン」です。この仕組みにより、エアーがミッドシップ・マウントのエンジンを冷却する、高温ラジエーターに送られます。

720S に搭載の新型の M840T エンジンは、高い評価を得ている、マクラーレンおなじみのツインターボ V8 エンジン・シリーズの流れを組んでいます。4.0 リッターのエンジンは、マクラーレン・スポーツシリーズに引き続き搭載されている 3.8 リッター・エンジンに比べて 41%の部品が取り替えられており、最高出力と最大トルクは、それぞれ 720PS と 770Nm となっています。

エンジン性能はまさに驚異的で、停止状態から時速 100km までの加速は 3 秒を切っており、その後わずか 5 秒でクルマは時速 200km まで加速し、そのまま最高時速 341km にまで達することができます。新しい 720S はブレーキ性能も同様にすばらしく、時速 200km での走行から停止状態に至るまでがわずか 4.6 秒で、その間の走行距離が 117m となっています。さらに、スピードだけではなく、エンジン効率も優れており、複合燃費は 10.7 リットル/km、新欧州ドライビングサイクル (NEDC) での CO2 排出量はわずか 249g/km となっています。

カーボン・ファイバー構造におけるマクラーレンの専門性の高さは、1993 年の McLaren F1 以来、すべてのロードカーにカーボン・ファイバー製シャシーが採用されているのを見ても明らかで、新しい 720S でもその専門性が発揮されています。720S のアーキテクチャは、基部となる新しいカーボン・ファイバー製の「タブ (tub)」と上部構造の「モノケージ II (Monocage II)」が中心となっています。この技術は、軽量の構造に非常に優れた強度と剛性をもたらす、スーパースポーツカーの理想的な基本構造となっています。さまざまなアルミニウム合金もシャシーおよび一部のボディー・パネルなどで広く使用されています。

720S では、マクラーレンの新世代の「プロアクティブ・シャシー・コントロール」と新たなサスペンション、電動油圧式パワー・ステアリングが一体となって機能し、グリップ、バランスおよび性能が大幅に向上し、ダイナミクス性能の幅広さも比類のないレベルとなっています。

革新的で斬新なマクラーレン・ドライバー・インターフェースは、折りたたみ式のドライバー用ディスプレイとキャビン中央のインフォテイメント・スクリーンで構成されており、マクラーレンならではの手作りの贅沢さ、上質なレザーと機械加工されたアルミニウムの格調高さがアクセントとなっています。このような特性に従来のスーパーカー・セグメントにはなかった見通しのよさ、広さ、快適さが組み合わされた、新しい McLaren 720S は、使いよさも圧倒的に優れており、現在販売されているもののなかでもっとも完璧なスーパーカーという称号にふさわしい作りとなっています。

新しい McLaren 720S は、マクラーレン正規販売店で注文が受け付けられており、7月よりデリバリー開始予定となっています。スペックは 3 種類用意されており、スタンダードおよび上位グレードであるパフォーマンスとラグジュアリーでは、さまざまなオプション・パックが装備されています。新しい McLaren 720S の車両本体価格は 33,383,000 (税込)からとなっています。McLaren 720S の車両情報と一連のビジュアル素材は、以下のマクラーレン・メディア・ウェブサイトでご覧いただけます。

[www.cars.mclaren.press](http://www.cars.mclaren.press)



## McLaren 720S

### テクニカルスペック

エンジン形態	M840T エンジン, 4.0 リッター V 型 8 気筒ツインター
ドライブトレイン・レイアウト	縦置きミッドエンジン、RWD
最高出力	720 PS (710 bhp/537 kW) @ 7,500 rpm
最大トルク	770 Nm (568 lbs ft) @ 5,500 rpm
トランスミッション	7 速デュアルクラッチ式シームレス・シフトギアボックス
サスペンション	独立型アダプティブ・ダンパー、ダブルウィッシュボーン形式、プロアクティブ・シャシー・コントロール II (PCC II)
ブレーキ	カーボンセラミックディスク (フロント 390mm / リア 380mm)
ホイール (インチ)	フロント 9J x 19 / リア 11J x 19
タイヤ	フロント 245/35/R19 93Y (XL) / リア 305/30/R20 103Y (XL)
全長	4,543 mm (179 インチ)
ホイールベース	2,670 mm (105 インチ)
全高	1,196 mm (47 インチ)
全幅 (ミラー展開時)	2,161 mm (85 インチ)
全幅 (ミラー収納時)	2,059 mm (81 インチ)
全幅 (ミラー取り外し時)	1,930 mm (76 インチ)
乾燥重量 (最軽量時)	1,283 kg (2,828.5 lbs)
車両重量 (DIN) (オイル類+ガソリン 90%)	1,419 kg (3,128 lbs)
荷室容量	フロント 150L、リア 210L

### パフォーマンス・データ\*

#### 加速

0 - 60mph	2.8 秒
0-100 km/h (0-62mph)	2.9 秒
0-200 km/h (0-124mph)	7.8 秒
0-300 km/h (0-186mph)	21.4 秒
0-400 m / ¼ mile	10.3 秒
最高速度	341km/h (212 mph)
ブレーキング 200 - 0 km/h (124mph - 0)	4.6 秒 / 117 m
ブレーキング 100 - 0 km/h (62mph - 0)	2.8 秒 / 29.7 m

#### 効率性

CO <sub>2</sub> 排出量 [NEDC]	249 g/km
燃料消費 - EU mpg (l/100km)	
複合サイクル	10.7 l / 100km
市街地	15.8 l / 100km
郊外	7.9 l / 100km

\* 全てのデータは確認が必要となります。MPG (UK/US) はまだ利用できません。

### マクラーレン・オートモーティブについて:

マクラーレン・オートモーティブは、ラグジュアリーかつハイパフォーマンスなスポーツカーを製造する英国の自動車メーカーで、サリー州ウォーキングのマクラーレン・テクノロジー・センター(MTC)を拠点としています。マクラーレンは車両製造にいち早くカーボン・ファイバーを採用し、30年にわたる経験を有しています。1981年のMcLaren MP 4/1や、1993年のMcLaren F1といったレーシングカーやロードカーにカーボン・シャシーを導入しており、これまでマクラーレンが製造した車両はすべてカーボン・ファイバー・シャシーが採用されています。

マクラーレン・オートモーティブは2010年の設立後、2011年に画期的なMcLaren 12Cの発表を皮切りに、2012年に12C Spider、2013年に限定生産のMcLaren P1™を発表しました。毎年新型モデルを導入するという計画を掲げ、2014年にはMcLaren 650S Coupeと650S Spiderを発表し、さらに2015年には前例のない製品ポートフォリオの拡大で、フルレンジにわたり5つのニューモデルがデビューしました。完全限定生産の675LT Coupéがジュネーブ・モーターショーで公開されたほか、サーキット専用で、最高出力が1,000PSであるMcLaren P1™ GTRが、ブランド史上もっともパワフルなモデルとして登場しました。多くの期待を集めていたスポーツシリーズは、マクラーレンの3つ目にして最後のモデル・カテゴリーであり、570S Coupéと540C Coupéがそれぞれニューヨークと上海で1か月のうちに次々とデビューしました。この年の最後には、お客様のご要望に応えるかたちで、5番目のモデルである675LT Spiderも発表されました。この年には、シリーズの最初のモデルであるMcLaren P1™の375台目の生産も完了し、マクラーレン・ブランドにとって記録づくめとなる1年を締めくくりました。2015年に発表したスポーツシリーズの2番目となるボディスタイルで、マクラーレン・モデルのなかでもっともラグジュアリーな570GTに続き、2016年はトラック用に変更した570S GT4や570S Sprintを発表しました。この年にマクラーレン・オートモーティブは新しいビジネス・プラン'Track22'を掲げ、研究開発に総額10億ポンドを投資し、2022年までに15車種の新型/派生モデルを発表する予定となっております。また、マクラーレン・モデルの少なくとも50%にハイブリッド技術を搭載します。2016年にはマクラーレン・プロダクション・センターにおいてセカンド・シフト制を導入したのを受け、売り上げが増加、過去6年間で3度目の最高益更新となりました。

### マクラーレン・オートモーティブの技術パートナー:

革新的で高い評価を獲得しているスポーツカー・ラインアップの開発、エンジニアリング、製造においてマクラーレン・オートモーティブは専門的なノウハウと技術を提供する世界トップレベルの企業と提携しています。主なパートナーは、アクゾノーベル、カストロール、ピレリ、SAPなどです。

マクラーレン・オートモーティブの日本オフィシャルウェブサイトおよび日本オフィシャルフェイスブックは下記のURLからご覧いただけます。

オフィシャルウェブサイト: <http://jp.cars.mclaren.com/>

オフィシャルフェイスブック: <https://www.facebook.com/mclarenautomotiveJP>

### 本件に関するお問い合わせ先

マクラーレン・オートモーティブ・アジア 日本支社

担当: 名取雅裕

TEL 03-6675-4313

または

マクラーレン広報事務局 (オグルヴィ PR)

担当: 中山奈央子、大野亜希子

TEL 03-5793-2377 / Mail [mclaren.pr.tokyo@ogilvy.com](mailto:mclaren.pr.tokyo@ogilvy.com)

